

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産業振興費

事業名 河川遡上アユ再生産促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部里川振興課水産振興室水産係

電話番号：058-272-1111(内4216)

E-mail：c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,277 千円 (前年度予算額： 1,277 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,277	0	0	0	0	0	0	0	1,277
要求額	1,277	0	0	0	0	0	0	0	1,277
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

水産資源保護法による指定を受けた長良川の保護水面区域において産卵場の造成を行うとともに、長良川においてアユ卵の人工ふ化放流を行い、伊勢湾流入河川のアユ資源を積極的に保護培養する。

また、世界農業遺産「清流長良川の鮎」の保全計画(アクションプラン)で計画されているアユの産卵場の整備及びアユ卵の人工ふ化放流を推進する事業である。

(2) 事業内容

○長良川におけるアユ産卵場造成

長良川の保護水面区域内において、河床を耕うんすることによりアユの産卵を促進する。

○長良川におけるアユ卵人工ふ化放流

河川で採捕したアユから人工採卵し、ふ化するまで管理する。

(3) 県負担・補助率の考え方

保護水面区域は水産資源保護法に基づき指定されており、区域内におけるアユ資源の維持・培養は県に義務付けられた事業である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	13	業務旅費
需用費	11	消耗品費、会議費
役員費	5	通信運搬費
委託料	1,248	産卵場造成、人工ふ化放流事業
合計	1,277	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○ぎふ農業・農村基本計画 (R3～R7)

第6章 将来像達成に向けた取組み

(3) ぎふ農畜水産物のブランド展開

⑥ 鮎を守り育てる体制構築

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県（水産資源保護法第十七条に基づき、保護水面の管理は当該保護水面を指定した都道府県又は農林水産大臣が行うこととされている。）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

水産資源保護法による指定を受けた長良川の保護水面区域において産卵場の造成を行うとともに、長良川においてアユ卵の人工ふ化放流を行い、伊勢湾流入河川のアユ資源を積極的に保護培養する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H29~R1 の平均)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①漁業者によるアユの漁獲量	191t	181t	350t	350t	350t	52%

○指標を設定することができない場合の理由

アユ資源量は自然環境やその他様々な要因の影響を受けるために、具体的数値目標を設けることは難しい。しかし、毎年事業を行うことにより一定水準以上の資源確保を目標とする。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 (長良川) ○アユ産卵場造成 河床約1600m²をブルドーザーで耕うん ○アユ卵人工ふ化放流 採卵数 1,560万粒
	指標① 目標：350t 実績：169t 達成率：48%
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> (長良川) ○アユ産卵場造成 河床約1600m²をブルドーザーで耕うん ○アユ卵人工ふ化放流 採卵数 1,579万粒
	指標① 目標：350t 実績：206t 達成率：59%
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> (長良川) ○アユ産卵場造成 河床約1600m²をブルドーザーで耕うん ○アユ卵人工ふ化放流 採卵数 1,620万粒
	指標① 目標：350t 実績：181t 達成率：52%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	鮎漁業を支える資源として天然遡上鮎と放流鮎がある。当該事業は、天然遡上鮎の維持培養に多いに貢献しており、継続して取り組むべき事業である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	木曾三川に毎年枯渇することなく稚魚が遡上してきていることから、事業の効果はあると判断できる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	採卵及び受精にあたり水産研究所の協力のもと、技術的指導を行い、事業効果向上を図った。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <ul style="list-style-type: none">・追跡調査の実施が不可能に近いため科学的根拠を示すのが難しい。・組合員の減少と高齢化による委託事業の継続問題
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか アユ漁業を復活させるためには、河川遡上アユ資源の増加が欠かせないため、アユ卵の人工ふ化放流やアユの産卵場造成に適した箇所を選定するなど、より効果的な増殖方法を確立していく。
